

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	<u>11</u>
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		<u>30</u>

外部評価機関:NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

訪問調査日	平成20年 8月7日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム わだつみ苑 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>腰 高行</u> 氏名 <u>藤田 泰洋</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者 計画作成担当者</u> 氏名 <u>小野 千景 岡 良子</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4678700081号		
法人名	社会福祉法人 陵風会		
事業所名	グループホームわだつみ苑		
所在地	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間字前田146-3 (電話) 0997-56-3777		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月7日	評価確定日	平成20年9月6日

【情報提供票より】(平成20年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年8月3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤2人、非常勤7人、	常勤換算7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	6名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名瀬徳洲会病院 奄美市住用国民保険診療所 同診療所歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このグループホームは、元役場地区の一つのまとまった集落の中で民家と接して活動している。この地域で、認知症高齢者の介護事業所は当ホームのみで、地域の期待とともに専門機関として信頼され、中学校の体験学習の場ともなっている。地域とよく密着したグループホームで面会者も極めて多く、近所の子どもたちが庭で自由に遊んだりしている。</p>
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	中学生の体験学習の受け入れなどホーム機能を地域に還元する取り組みがなされ、課題は改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を職員に伝えるとともに、全職員で自己評価を実施している。自己評価から改善点に気づいて支援に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	家族や警察駐在員など幅広い構成となっている。事業報告等のほか、ホーム主催の研修会のあり方や、地域行事の参加などについて多くの意見が出されている。可能な限り改善の取り組みがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の集まりを運営推進会議に合わせて開催し、面会日等で家族の意見を聴取するようにしている。多数の意見が出ており、運営に反映させている。苦情解決については、第三者委員の設置を予定している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の子どもたちが庭に来て遊んだり、警察駐在員が気軽に立ち寄りたりしている。また、地域の行事等にも積極的に参加し、中学生の体験学習を受け入れるなど地域との交流が盛んである。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 腰 高行 / 調査員 藤田 泰洋

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい普通の生活」を理念に掲げ、地域での行事に積極的に参加し、地域の人々との交流や地域社会への参加を支援するという地域密着型サービスの基本をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各所に掲示するとともに、職員が常に意識するようにしている。また、理念の中の利用者の意志の尊重や、地域との交流を積極的に実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の子どもたちが庭にきて遊んだり、警察駐在員が気軽に立ち寄りしている。また、地域の行事等にも積極的に参加し、中学生の体験学習を受け入れるなど地域との交流が盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を職員に伝えるとともに、全職員で自己評価を実施している。自己評価から改善点に気づいて支援に活用している。外部評価結果は、運営推進会議に報告して意見をもらっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や警察駐在員など幅広い構成となっている。事業報告等のほか、ホーム主催の研修会のあり方や、地域行事の参加などについて多くの意見が出されている。可能な限り改善の取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアプランなどの疑問点を指導してもらったり、研修会のあり方や情報などの意見交換をしている。また、運営推進会議録を市の担当者や包括支援センターに提供して意見をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	”わだつみ苑便り”を月に1回発行して利用者の暮らしぶりを報告している。面会時にも健康状態などを報告している。金銭管理は毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の集まりを運営推進会議に合わせて開催し、面会日等で家族の意見を聴取するようにしている。多数の意見が出ており、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、馴染みの職員で対応することの大切さを認識している。退職者に代わる新規の職員には、利用者で紹介し影響を抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修などの外部研修の機会もあるが、毎月1回の内部研修に力を入れている。また、介護支援専門員など個々の資格取得の支援もしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問したり、老健の職員を招いて連絡会で事例発表や課題点など出し合い、他のグループホームから出た意見を参考にするなどサービスの質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人をホームに案内して、他の利用者と一緒にお茶を飲みながら雰囲気に徐々に馴染めるようにしている。職員や利用者とのコミュニケーションを重要視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の知らない調理法を教わったり、茶碗拭きや洗濯物たたみなどの共同作業を通じて、尊敬や共感の気持ちを忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での言動や表情などから、思いや意向を把握するよう努めている。毎日の生活記録で情報の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人を担当者会議に参加させている。月1回の職員会後に介護計画のミーティングをしている。利用者・家族の希望を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員で分担して利用者を担当している。モニタリングは各担当職員が実施し、他の職員と情報交換しながら見直しを進めている。変化が生じた場合も家族に相談しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の意向や状況に応じて、散髪支援や墓参り・投票所・葬式の送迎など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	疾病ごとのかかりつけ医と協力医療機関の受診支援で適切な医療が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、今後の課題として学習会をすることとなっている。	○	本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応し得る最大の支援方法を職員を含めたチームで検討することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「自分だったらいやだ」と思うささいなことにも気をつけて、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。職員による個人情報管理も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は自由である。入浴なども本人の意向や状況に応じて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物、味付け、片付けなど入居者と職員が共に行い、懇談しながら楽しく食事をしている。また、外食や出前も楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則として毎日入浴ができる。順番もその日によって、自由である。話がはずんだり、歌ったりしてゆっくり入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は掃除機かけ、洗濯物たたみ、皿拭きや草取りなどの役割をもっている。本や新聞を読んだり、ぬりえ等の楽しみごとや、犬をかわいがったり、散歩、ドライブなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や本人の希望した衣類・日用品などの買い物・外食の支援をしている。車いす使用の利用者にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中は鍵をかけない支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに訓練を実施している。食糧や飲料水の備蓄もされている。区長などの理解は得られているが、地域の組織的な協力態勢の立ちはげはこれからである。		有効な緊急時の近隣協力体制の構築が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受け、食事量と栄養バランスを確保している。水分摂取のチェックをこまめに行うことを職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者が居心地良く過ごしている食堂や使いやすいトイレ・浴室となっている。昔馴染んだ糸車がおかれ、季節的には七夕飾りやひな壇も用意されている。台所も清潔で快い音楽が流れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、位牌や写真・ラジカセ・装飾品などが持ち込まれ入居者は安心して過ごしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。